

しれとこ の森通信

2009
No.12

100平方メートル運動の森・トラスト



第29回知床自然教室 知床の森で5日間を過ごした子どもたち

知床の森と子どもたちをつなぐ知床自然教室には、これまで29年間でのべ約1500人の子どもたちが集い、知床の自然の豊かさと厳しさを身を持って感じてきました。そして子どもたちにとっての「知床」は、忘れがたい原体験として今も胸に刻まれています。

知床の「夢」は次世代へと引き継がれていきます。

この用紙は環境保全（資源活用）のため古紙配合紙を使用しています。



NATIONAL TRUST
知床で夢を育てませんか！
いのちあふれる森を次の世代へ

知床の世界自然遺産登録から4年が過ぎようとしています。ただし遺産登録はゴールではなく、知床を未来へ残すための一つの通過点でしかありません。

アメリカオニアザミやセイヨウオオマルハナバチ、アライグマなど外来種問題、オーバーユースによる植生への影響やし尿の問題、ヒグマと人の共存のための仕組みづくりなど、解決すべき課題は数多くあります。

知床半島に高密度に生息するエゾシカの存在も大きな課題のひとつです。昨年は、知床の高山帯に分布するシレットコスミレにもシカの食跡が確認されており、知床の植生へのシカの圧力は予断を許さない状況です。環境省では、一昨年よりシカによる植生変化が特に著しい知床岬地区での試験的な捕獲事業を開始するなど、すでに人為的な頭数管理が必要な段階に達しています。

100平方メートル運動地では、森づくりのためのエゾシカ対策として、樹皮保護ネット巻きや防鹿柵の設置など、多くの方々の手助けを借りながら地道な作業を進めてきていますが、今後は、知床世界遺産地域のシカ管理の一環として行われる捕獲事業の受入れを想定した、一歩踏み込んだ対策の検討が必要とされています。

「しれとこ100平方メートル運動」の開始から32年、その時には想像も及ばなかった様々な課題が今の知床にはあります。しかし、全国各地の運動参加者の皆さんに支えられるこの運動は、それら課題に真摯に向き合いながら、数百年先の夢の森の実現に向け、これからも続いていきます。

引き続き運動へのご協力をお願い申し上げます。

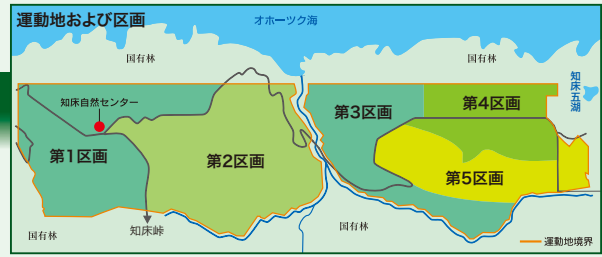
斜里町長 村田 均

- 昭和52年(1977) 「しれとこ100平方メートル運動」の提唱、開拓跡地の買い取りを開始
- 平成9年(1997) 20年目で募金目標に到達
新たな展開「100平方メートル運動の森・トラスト」のスタート
森の生態系を再生する作業を本格的に開始
- 平成14年(2002) 運動地を一巡した第一次回帰作業が完了
- 平成15年(2003) 第二次回帰作業の開始
- 平成17年(2005) 知床が世界自然遺産に登録
- 平成19年(2007) 「しれとこ100平方メートル運動」の提唱・開始から30年が経過
第二次回帰作業が完了
- 平成20年(2008) 夢の森へ向けて、第三次回帰作業の開始



平成20年度(2008)の森づくり

平成20年度(2008)は、幌別台地の西側に位置する第1区画を中心に作業を行いました。5年毎の回帰作業も3巡目を迎えています。



カラマツ林試験地 10年分の小さな森

運動地の中に小さな「森」ができています。キハダやオヒョウなど20種類以上の広葉樹の木々が自然に飛んできた種によって芽吹き、生長している場所があります。

今から10年前、開拓当時の1960年代に植えられたカラマツの林を防鹿柵で囲いました。これは一度人の手の入った森をどのように復元するかを調べるための試みでした。ここでは防鹿柵で囲うほかに、カラマツの木の本数を減らして陽光が入りやすくなる場所もつくり、それぞれの変化を追跡する調査を行っています。

10年後の現在、カラマツの密度を下げ、エゾシカの影響(食圧)を受けない防鹿柵で囲った区画は、人の背丈を超えるほどのたくさんの広葉樹で覆われてきています(下図C)。ここは、運動地のどの場所でも見られないような、小さな森になっています。一方、同じ柵の中でも光が入りにくい場所では、広葉樹で覆われているもののその背丈は高くありません(下図B)。



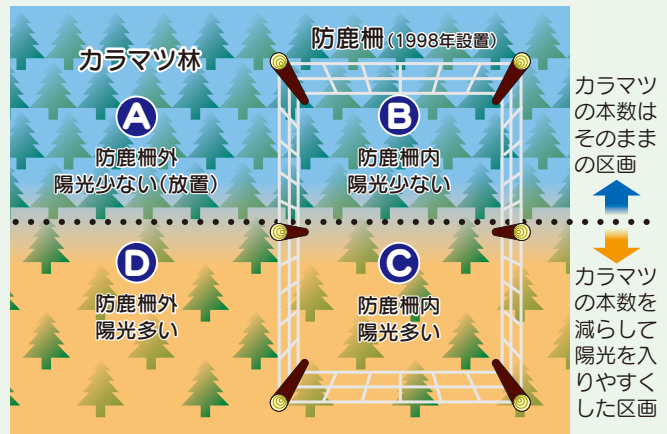
防鹿柵の外ではほとんど広葉樹の姿を見ることはありません。ただ、柵がなくても光が入りやすい場所では、シカに食べられない針葉樹のトドマツがすくすくと育ち始めています(下図D)。

この小さな「森」は、知床の中のほんの小さな点に過ぎません。しかし、この森はたくさんのことを教えてくれます。シカの圧力の強さ、陽光の重要性、そして知床の森には次の世代へと命の輪をつなげていく力がまだ残っていることを。

運動の森づくりは、ひとつひとつの作業結果を確かめながら、自然に対し常に謙虚な姿勢で進めています。「森」が教えてくれるたくさんの事実は、未来の知床の森へとつながっていきます。



防鹿柵の中と外。10年間の森づくりの成果をひと目で見る事ができる場所のひとつです。



カラマツ林試験地の模式図

「カラマツ」の役割

北海道のいたる所で見かけるカラマツは、もともと北海道にはなかった種類の樹木です。原生の森の復元を目指す運動の森づくりでは、もともとなかったこのカラマツを将来的には減少させていく方針です。ただし、現在の知床の森は、多くの広葉樹の木々がシカに食べられて少なくなり、そこに風が吹き抜けることによって森の衰退が始まるようとしています。その中で、シカに食べられにくいカラマツは、防風林として周辺の森を守る重要な役割を担っています。そのため、当面カラマツには、大きく手を付けずに、現状を維持していくことにしています。



冬のカラマツ林試験地

平成20年度(2008)の作業実績

平成20年度(2008)は樹皮保護ネットの巻き直しや防鹿柵の支柱交換などメンテナンスを中心に作業を進めました。その他、苗畑で育成している広葉樹の植樹作業、サクラマスの復元に向けた卵の放流などを行いました。

*平成21年度(2009)は第2区画を中心に作業を行います。

特集 森づくりを支える力

昭和52年（1977）に始まった「しれとこ100平方メートル運動」。この32年間、約6万2千人の方々の寄付（約7億1千万円）をもとに、土地の買い取りが進められ、現在ではその守られた土地で森づくり作業が行われています。



この運動は、運動参加者の皆さんや交流事業参加者の方々（6ページ参照）の他にも、ボランティアの皆さん、地元の皆さん、運動に賛同する企業や団体、その他たくさんの人の力によって支えられています。今回はこの運動を支える支援の輪について紹介します。

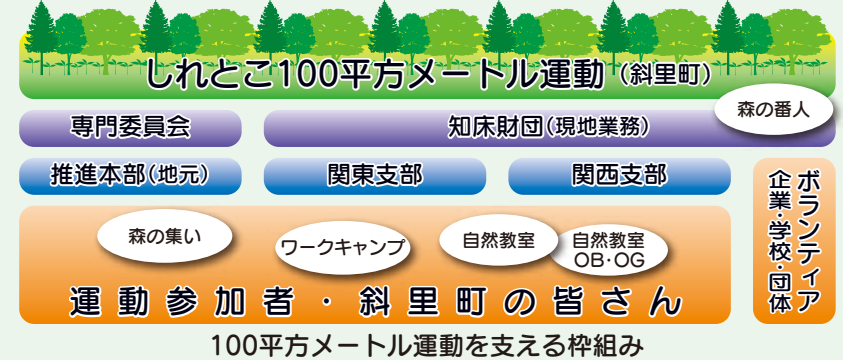
運動を支える支援の輪

この運動の開始当初に設立された100平方メートル運動推進関東支部と関西支部の皆さんには、それぞれの地域での運動の普及活動や交流事業への協力など、多大なご支援をいただいています。また、平成9年(1997)に設置した森林再生専門委員会

議では、動植物の専門家と地元の有識者で構成される委員の方々から森づくりに関する助言や提言をいただいています。また現在、運動開始から32年間の軌跡をまとめる編纂作業が進められています。知床の自然保護のみならず、日本のナショナルトラスト運動の先駆けとしても重要な役割を果たしてきたこの運動の歴史を、後世へと引き継いでいくことを目的として



森林再生専門委員による、運動地に隣接する国有林内の防鹿柵の調査。この柵はこの委員会の提言を元に林野庁によって設置された。



ボランティア

森づくり作業にはなくてはならないボランティアの皆さんの力。昨年度は27名の方に、のべ約100日分の作業をこなしていただきました。雨の日も雪の日も、野外作業へと張り切って向かうボランティアの皆さんは心強い限りです。限られたスタッフだけでは成し得ないほどの作業を進められるのも、ボランティアの皆さんの力があってこそです。



小雨の中での防鹿柵修繕作業。掘る人、打つ人、支える人分業して効率的に作業を進める。



雪の中での樹皮保護ネットのメンテナンス作業。夏にできない作業は冬に行う。

企業・団体

運動の主旨に賛同していた企業や団体の皆さんにも、知床を訪れ森づくり作業に関わっていただく機会があります。昨年度はその道のプロの日本植木協会青年部会42名の皆さんに高度な技術を発揮していただき、またイオンチアーズクラブの子どもたち34名が知床の自然と森づくりを体験しました。



日本植木協会青年部会による苗の「根巻き」。



イオンチアーズクラブによる苗畑の除草作業。仕事の成果を囲んで記念撮影。

学校

知床の自然やこの運動を伝えることも森づくり作業とあわせて行っています。毎年たくさんの若い世代がこの森を訪れ様々な経験を



人海戦術による旧開拓家屋の片づけ作業。(酪農大実習)

していきます。昨年度も毎年恒例の地元斜里高校1年生の自然体験学習や酪農学園大学と専修大学北海道短期大学の学生実習などを受け入れました。



地元高校生101名が知床の大地に植樹を行う。(斜里高校自然体験学習)

地元

運動を進めるサクラマス復元の取り組みでは、地元の(社)北見管内さけ・ます増殖事業協会の皆さんに現場での指導や助言などのご協力をいただいています。また、昨年度は同協会の事業の一環として、運動地内を流れる岩尾別川の



改修前①と改修後②の岩尾別川の河川工作物。ダム段差が解消され、サケやマスが上流まで遊べるようになった。

旧開拓農家の家屋修繕

平成20年(2008)秋、100平方メートル運動地に現存する最後の開拓家屋の修繕が行われました。運動の基本方針は全てを自然に戻すことを前提にしていますが、運動の始まりとは切り離せない知床開拓の歴史を残すために、この家屋を保存することになりました。修繕といっても、トタン屋根や外壁、基礎の土台の交換と傾いた玄関を立て直すという最低限なものです。これでひとまず倒壊の恐れはなくなりました。建物内部は、残された当時の生活用品の整理と朽ちた畳などを片付ける程度で基本的にはそのままになっています。

実際に生活の場として使われていました。それほど遠くない昔、この知床にも人々の暮らしがあったこと、そして100平方メートル運動が始まり現在へと続いていることなど、この残された建物を通して、知床の人の歴史を未来へ伝えていきます。



この家屋は、1960年代後半まで実際に生活の場として使われていました。改修後の旧開拓家屋。崩れていた玄関部分も復元された。



前斜里副町長関根郁雄さん(現知床財団理事長)が中心となって過去32年間の膨大な資料を整理している。

平成20年度(2008) しれとこの森交流事業開催報告

第29回 知床自然教室

平成20年(2008)7月30日～8月5日

地元斜里町をはじめとする全国各地、遠くは海外からも含め総勢47名の子どもたちが知床の森に集まりました。森深くまでの探検や森づくりのお手伝い、ある時は強風のなかテントで一夜を過ごすなど、子どもたちは4泊5日の野外生活で様々な経験を積み重ねました。



食事の前に必ず歌う「いただきます」の歌。朝昼晩、食事はすべて自分たちで作る。

までの針葉樹から広葉樹に変更しています。これに伴い開催時期もこれまでの9月から10月へと変わりました。



苗木も子どもたちも未来へ向かって。

第12回 森づくりワークキャンプ

平成20年(2008)10月30日～11月4日

今回は全国から13名の方にご参加いただきました。大きな天気の影響もなく、作業は順調に進み、大型の苗木の移植作業や防鹿柵のかさ上げ作業、広葉樹の植樹など、盛りだくさんの仕事をこなすことができました。



大きな苗木を支える柱も全て自分たちで立てる。

第12回 しれとこの森の集い

平成20年(2008)10月19日

晴天に恵まれた当日、運動地で育成したカシワやハルニシなど14種類、約200本の広葉樹の苗木が、参加者100名の方々の手によって知床の(防鹿柵の中の)大地へと植えられました。今回の森の集いから、植樹する苗木をこれ

平成21年度(2009) しれとこの森交流事業のご案内

第30回 知床自然教室

全国から集まった仲間といっしょに知床の海、山、川で遊び、森づくりのお手伝いもする1週間は、忘れられないものになるでしょう。

日程：平成21年7月30日(木)～8月5日(水)

定員：40名(先着順)

対象：小学校4年生～高校3年生

参加費：35,000円(現地までの交通費は別途必要です)

締切日：7月9日(木) 応募締め切り間近です！

お問い合わせ：知床財団 Tel: 0152-24-2114, Fax: 0152-24-2115

第13回 しれとこの森の集い

午前中は森の番人の案内で森づくりの様子を見学。午後は植樹祭を行います。午前・午後、どちらか一方のみの参加も可能です。

日程：平成21年10月18日(日)

参加費：無料

お問い合わせ：斜里町役場自然保護係

Tel: 0152-23-3131, Fax: 0152-22-2040

第13回 森づくりワークキャンプ

スタッフと寝食を共にしながら森づくりに打ち込む6日間。森づくりの奥深さ、そして楽しさを体験してみませんか？

日程：平成21年10月30日(金)～11月4日(水)

対象：18歳以上

定員：12名(先着順)

参加費：18,000円

締切日：10月20日(火)

お問い合わせ：知床財団 Tel: 0152-24-2114, Fax: 0152-24-2115



知床自然教室30周年企画「知床への回帰」

知床自然教室は今年で30回目を迎えます。昭和55年(1980)の第1回自然教室以来、これまで29年間でのべ約1500人の子どもたちが知床から巣立ってきました。この30回目の節目の年に、これまでの自

然教室を振り返るとともに、これからの自然教室、そして100平方メートル運動を考える、知床自然教室30周年「知床への回帰」をこの秋に開催します。それぞれ「夢」を託されて自然教室に参加したか

つての子どもたちが、今、次の世代のために再び知床に集る時がきています。知床自然教室に関わったすべての皆さん、知床の未来のためにもう一度集まってみませんか？



第2回知床自然教室(1981年、参加者67人)当時の参加者はすでに30～40歳代。現在はその子どもたちが自然教室に参加している。

知床自然教室30周年企画 知床への回帰 参加者募集中!

日程：平成21年9月19日(土)～21日(月)

場所：しれとこの100平方メートル運動地、ウトロ漁村センター

対象：知床自然教室OB・OG(18歳以上)、自然教室リーダー・指導員経験者など

内容：「ボンホロ再訪」「森づくり作業地見学」「知床自然教室ミーティング」など

お問い合わせ・申し込み先

知床財団 TEL:0152-24-2114 / FAX:0152-24-2115

MAIL: info@shiretoko.or.jp

内容や参加費(現地までの交通費は参加者負担)など詳細はHPで。「知床自然教室」で検索。

参加できない方も連絡を！
連絡先・近況をぜひお知らせください。大人になっても自然教室の「きずな」は続きます。

平成20年度決算

■ 保管理事業

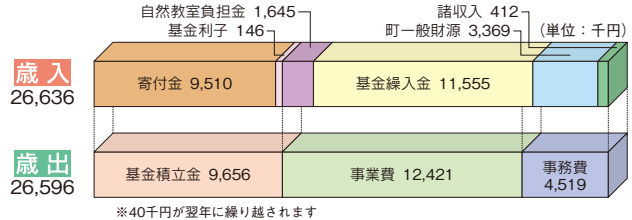
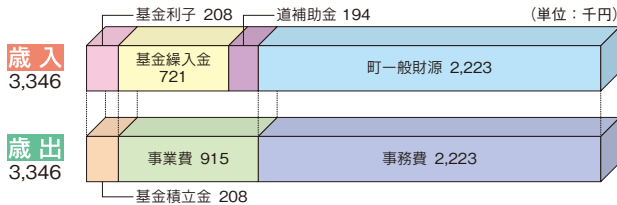
事業費は、運動地の下刈りなどで約92万円を支出しました。事務費は主に「しれとこの森通信」の印刷・発行費用で約222万円です。

保全された土地の現状 (単位: ha)

運動地面積	861.90	保全済み地域	849.98
		(寄付金による取得地	459.26)
		(既存町有地	390.72)
		今後の取得対象地	11.92

■ 森林再生事業

森林再生のための事業費として、総額約1,242万円を支出しました。その内訳は、知床財団への森林再生事業委託費の1,214万円が主なものです。また、事務費として、しれとこの森通信や発送用封筒等の印刷費、受付事務員の賃金など452万円を支出しました。この事務費の中には、旧開拓家屋の修繕費約85万円も含まれています。



■ 森林保全基金の状況

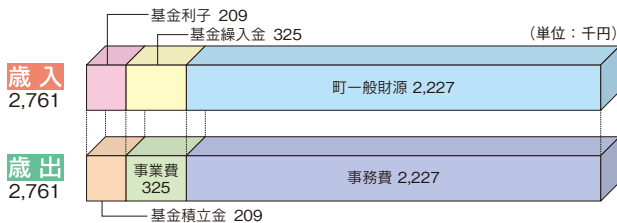
国立公園内森林保全基金の状況 (単位: 千円) (平成21年6月1日現在)

		国立公園内森林保全基金					国立公園内森林保全基金		
		土地保全管理資金 (保全事業のための資金)			森林再生等資金 (再生事業のための資金)				
		H19年以前	H20年	計			H19年以前	H20年	計
歳入	寄付金	522,534	0	522,534	歳入	寄付金	186,708	9,510	196,218
	利息	68,187	208	68,395		利息	656	146	802
	計	590,721	208	590,929		計	187,364	9,656	197,020
歳出	土地取得	325,113	0	325,113	歳出	事業費	135,713	9,806	145,519
	植林等事業	131,920	721	132,641		事務費	26,677	1,748	28,426
	事務費	81,540	0	81,540		計	162,390	11,554	173,945
残高		538,573	721	539,294	残高		24,974	△1,898	23,075
		52,148	△513	51,635					

平成21年度予算

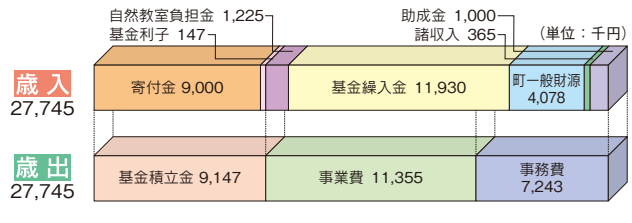
■ 保管理事業

事業費として、植樹後10年以内の地域や記念植樹地での下刈りに、約33万円を支出予定です。事務費の約223万円は主に「しれとこの森通信」の印刷・発行費用に支出します。



■ 森林再生事業

事業費は、森林再生の現地作業やしれとこの森交流事業の企画運営などに約1,100万円を支出予定です。事務費は、事務員賃金(157万円)やパンフレット類の印刷費用(61万円)のほか、100平方メートル運動史の編纂・出版費用(361万円)など約724万円です。



NATIONAL TRUST The Shiretoko 100m² Movement

100平方メートル運動の森・トラスト

たくさんの寄付をありがとうございました

平成20年度も、たくさんの方々からのご厚意をいただきました。全国各地からの寄付の中には、10万円以上の高額寄付金もありました。また、毎年ボーナスの一部を寄付いただいている愛知県のある企業の従業員一同さまからは、「今年は賞与が半分になったので、寄付もいつもの半額しか出せませんが…」と、景気低迷の厳しい状況にもかかわらず、継続したご支援をいただきました。知床の森づくりに熱い思いをお寄せいただいている多くの皆さまに、ここに改めてお礼を申し上げます。ありがとうございました。



知床で夢を 育てませんか!



募金証書



100平方メートル運動の森・トラスト
The 100sqm Forest Shiretoko Trust

数百年後の豊かな知床の森と生物相の復元に向けた取り組みは、皆さまからの寄付金によって支えられています。引き続き暖かいご支援をよろしくお願いいたします。

●運動に参加するには?

申込書を郵送またはファックスにてお送り下さい。申込書はホームページからダウンロードもできます。寄付金は1口5,000円で、何口でもけっこうです。郵便振替が現金書留で斜里町役場までお送り下さい。

- 郵便振替の場合 口座番号：02740-8-10555 加入者名：斜里町役場
- 現金書留の場合 申込書も同封の上、斜里町役場自然保護係へ郵送願います。

●運動に参加すると!

- 将来の知床の森をイメージした募金証書を発行いたします。
- ご寄付いただいた年の活動状況を、翌年に「しれとこの森通信」でお知らせいたします。
- 森づくりにたずさわる機会（しれとこの森交流事業）を提供します。
- 5年周期の森づくり計画が一巡することに報告書をお届けします。次回は平成25年(2013)にお送りします。

●運動への寄付金は、所得税および住民税の控除制度(ふるさと納税)の対象となります

- 所得税は課税対象額から寄付控除を受けることができます。
- 地方公共団体への寄付金に係る控除が拡大され、住民税は課税額から寄付控除を受けることができるようになりました。
- 対象となるのは5,000円を超えるご寄付です。

●募金証書

- 証書の絵は、ワイルドライフアートの第一人者である田中豊美さんの手によるものです。
- メッセージを書き込むこともできます。例えば「祝 お誕生」など。お知り合いへのプレゼントとして、ご協力いただくこともできます。
- 募金証書用の額縁は、これまで地元・斜里の木工サークルの方々手作りの木製額縁(2,200円)を用意しておりましたが、原材料の入手が困難となり製作できなくなりました。今後は、同様のデザインの市販品の木製額縁(1,500円)に変更となりますのでご了承下さい。

お知らせ

●関西方面在住の運動参加者の皆さまへ

100平方メートル運動推進関西支部(世話人代表:小田忠文)では、知床からはなれた関西の地で、運動推進に関する独自の活動をおこなっています。毎年恒例で実施している「天



神崎の自然から学ぶつどい」など、今後、関西支部からの行事案内等の送付を希望される方は、ファックス等で斜里町役場環境保全課までお知らせ下さい。

関西支部と本部の交流(2009.3.28)

●前関西支部世話人代表・笠岡英次さんに 斜里町特別貢献表彰!

斜里町では10年に1回の節目の年に、町外在住の功労者への表彰を行っています。斜里町130年の昨年11月3日、この斜里町特別貢献表彰が、昨春まで長きにわたって100平方メートル運動推進関西支部の世話人代表を務められた笠岡英次さんに贈られました。



●KDDIによる環境保全活動「知床Walk」実施中!

KDDI(株)では、5/26~7/31の期間、スポーツサポートサービス『au Smart Sports Run&Walk』を利用して、ユーザーが歩いたり走ったり、自転車に乗った距離を、1kmにつき1円の金額に換算。その総額を知床の森づくりのため、「100平方メートル運動の森・トラスト」に寄付するというプロジェクト「知床Walk」を実施中。歩いて!走って!知床の森づくりにご協力下さい。



(詳しくはHP参照) <http://au-ss.jp/pc/aboutShiretoko/>

●森通信の発送が不要な方はお知らせ下さい

近年、通信物の発送を希望されない方から、発送停止についてのご連絡をいただくことが増えてまいりました。今後の通信物等の送付を希望されない方は、お手数ですが、斜里町役場までお電話又はFAXにてご連絡ください。

なお、森通信のバックナンバーは下記ホームページでもご覧になれます。

ネットでつながるしれとこの夢の森

運動への参加や森通信のバックナンバーはこちらのHPをご覧ください。

斜里町「100平方メートル運動の森・トラスト」ホームページ
<http://www.town.shari.hokkaido.jp/100m2/>

●森づくりブログ「森づくり日誌」を始めました。

この「森づくり日誌」では、森づくりの現場から日々の作業の様子や知床の森の風景をお届けしています。

森づくり日誌 検索

知床財団ホームページ「森づくり日誌」
<http://www.shiretoko.or.jp/saisei/>



お申込み・お問い合わせ先

〒099-4192 北海道斜里郡斜里町本町12番地 斜里町役場自然保護係
TEL 0152-23-3131(内線125) FAX 0152-22-2040